

第4回 孫の結婚式に参列

先日、旅行から戻ったばかりのお客様が亡くなったご家族から連絡がありました。旅先でトラベルヘルパーが撮った写真を遺影に使用したいから送ってほしいという話でした。

最期の旅の目的は、孫の結婚式へ参列することでした。遠い故郷の施設にいる祖父を招きたいと新郎新婦が計画したものです。90歳を越える高齢でしたから周囲も心配され、行けない時がっかりさせたくないで本人には間際まで内緒で旅の準備をしました。



▲孫の結婚式に出るため、トラベルヘルパーに付き添われ九州から上京

住まいのある九州から東京まではご家族が世話をし、トラベルヘルパーは羽田空港で出

感謝の言葉に励まされ

安全! 快適! **介護旅行**
 SPIあ・える倶楽部社長
 篠塚 恭一



1961年千葉市生まれ。大手旅行会社の添乗員を経て91年(株)SPI設立。ホスピタリティ人材の育成派遣に携わる。95年よりトラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長。NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長

迎えるところでバトンタッチ、サービスに入りました。以前は、出発地からスタッフをつけなければならなかったのですが、今は航空会社のサービスが行き届き、必要なところだけ入るといふスポットサービスが提供できるようになっています。孫との再会を果たした本人は大喜びで、無事式にも参列でき元気に帰郷したと聞いていましたので突然の訃報に驚きました。

す。もとより死期が迫る方の旅の手伝いが介護旅行ですから仕方のないことですが、ご一緒すると身体がその方の一部になったように感じるのです。そうした方のお別れはより辛いものです。私たちは、介護旅行を引き受ける際に3つの確認をとるルールがあります。一つ目は、まず本人が行きたいという意志を持ち、その確認ができること。確認の方法は瞬きや眼球を動かすだけでも構いません。次に家族が同意をしていること。家族がいらない方は後見人など善意の第三者に代ってもらいます。そして、疾病がある方は、主治医の許可を得るといふ3つの確認です。正確な情報に基づき、確実な計画を立て、温かいサービスを素早く届ける。そうした姿勢が介護旅行には必要です。「ありがとうございます。この中から遺影用に使わせていただきます。」ご家族の言葉に、私たちもまた励まされています

暮らし・趣味